



## ESD (持続可能な開発のための教育)

◇ ESDとは、**持続可能な開発のための教育** (Education for Sustainable Development) の頭文字を取ったものです。

地球規模の環境破壊や、エネルギーや水などの資源保全が問題化されている現代において、私たちが現在の生活レベルを維持しつつ、次世代も含む全ての人々により質の高い生活をもたらすことができる状態での開発を目指すことが重要な課題となっています。

これがESDの考えです。

以前、「マイ箸運動」というものが盛んに言われたことがありました。“割り箸を使うことは、環境破壊につながる”ということから、割り箸を使わないようにしようという運動です。しかし、この運動と同時に、割り箸は間伐材から作られていること、割り箸を製造販売して生活を成り立たせている人がいること、などが話題となり、“マイ箸運動は持続可能な運動ではない”ということになり、一気に下火になっていきました。このことから分かるように、「持続可能な開発」を進めていくためには、一つの視点からだけで考えてはいけないということなのです。学校教育、学校外教育を問わず、国際機関、各国政府、NGO、企業等あらゆる主体間で連携を図りながら、教育・啓発活動を推進する必要があります。この教育の範囲とは、環境、福祉、平和、開発、ジェンダー、子どもの人権教育、国際理解教育、貧困撲滅、識字、エイズ、紛争防止教育など多岐にわたるものだと言われています。

そのため、文部科学省でも、関係各省、NGO、企業等と連携しつつ、社会・文化、環境、経済の分野に注目し、人権教育、異文化理解、男女共同参画社会の構築、環境教育の推進に積極的に力を入れるようになったわけです。

◇ このような持続可能な開発は、私たち一人ひとりが、日常生活や経済活動の場で、意識し、行動しなければ実現しません。まず、私たち一人ひとりが、世界の人々や将来世代、また環境との関係性の中で生きていることを認識し、行動を変革することが必要であり、そのための教育がESDだと言われています。新しい学習指導要領にも、「持続可能な社会の実現」という表現で、総則編に記載されています。

ESDとは、地球に存在する人間を含めた命ある生物が、遠い未来までその営みを続けていくために、これらの課題を自らの問題として捉え、一人ひとりが自分にできることを考え、実践していくこと (think globally, act locally) を身につけ、課題解決につながる価値観や行動を生み出し、持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動です。以下に示しているような、そこに組み込まれている考え方そのものがポイントになっています。そういう意味で、この教育の考え方は、必ず大事なものとなるはずです。

### 【ESDで培いたい「価値観」】

- ◇ 人間の尊厳はかけがえがないものである
- ◇ 私たちには社会的・経済的に公正な社会をつくる責任がある
- ◇ 現世代は将来世代に対する責任を持っている

- ◇ 人は自然の一部である
- ◇ 文化的な多様性を尊重する

このような価値観，人として当たり前のことを指しているように思えます。ESDではこのようなことを大事にしているのですね。

### 【ESDを通じて育みたい「能力」】

- 自分で感じ，考える力
- 問題の本質を見抜く力／批判する思考力
- 気持ちや考えを表現する力
- 多様な価値観をみとめ，尊重する力
- 他者と協力してものごとを進める力
- 具体的な解決方法を生み出す力
- 自分が望む社会を思い描く力
- 地域や国，地球の環境容量を理解する力
- 自ら実践する力

ESDを進めていくために必要な能力ということですが，目に見える学力ではないことがお分かりになると思います。これこそ，「生きる力」に通じるもののような気がします。国際的な視野をもつということはどういうことか，考える必要を感じますね。

### 【ESDが大切にしている「学びの方法」】

- ❖ 参加体験型の手法を活かす
- ❖ 現実的課題に実践的に取り組む
- ❖ 継続的な学びのプロセスがある
- ❖ 多様な立場・世代の人々との学びを取り入れる
- ❖ 学習者の主体性を尊重する
- ❖ 人や地域の可能性を最大限に活かす
- ❖ 関わる人が互いに学び合える
- ❖ ただ一つの正解をあらかじめ用意しない

「学びの手法」にもESD独自のものを感じます。いわゆる明治以来，日本が大事にしてきた学習手法からの大転換が求められているということです。

- ◇ ESD教育で取り上げるテーマや内容は特に新しいものを取り上げようというものではありません。今私たちが取り組んでいるものをESDという新しい視点から捉え直すことによって，持続可能な社会の構築という共通の目的を与え，具体的な活動の展開に明確な方向付けをするものだととらえたいと思います。私は，約10年前に杉田洋先生の講演の中でこのことを知り，関心をもつようになったものです。

文責 スギタ